

真に豊かさが感じられる地域づくり

福伊英子

真の豊かさということは、社会構造でもあるし、人の心の問題でもあると思います。国の豊かさ、地域の豊かさもまず、一家族、一個人の豊かさでもあります。衣食住に満ちたり、社会福祉、老人福祉、公共設備、すべての面で少し前の時代とは比べものにならないほど、みな充実してきたと思います。経済大国日本、物質的にも世界一という豊かさを誇りながら、なぜ今このテーマなのかと思います。物質的には非常に豊かになった反面、心の豊かさという心を忘れてしまった現代人の悩みが、いろいろな型で社会問題となっています。真面目な者がバカを見るとか、短い人生、おもしろおかしく暮らさなければ損だとか、なんといってもお金が第一、お金がなければ豊かさも買えない、といった風潮が、国民全体に深く浸透して来てしまった。男も女も、老いも若きも子供に至るまで、お金、お金、お金……。どんなことでもお金で解決して来てしまった結果、家庭の団欒が消え、離婚、親子の断絶、登校拒否、家庭内離婚といふ道が当然の結果として生じて来た。いかに立派な仕事が出来ても、どれほどの給料を稼いで来ても、家族がバラバラであっては砂の上に築いた城のようなものである。家族の心のつながりなくして育ってきた子供達が、将来果たして心豊かに暮らすことが出来るでしょうか。親に暴力をふるい、人を安易に殺してしまったり、血も涙もない若者が増え、本当に世も末だと言いたい現実の中で、いまこそ家族の大切さ、家族の心のきずなについて考えなければと思います。バブルがはじけ、これまでのようにお金で人を動かし、国を動かし、無限に物があるんだといった感覚を捨て、本当の豊かさとは何かを真剣に考えなければならない時だと思います。豊かさという意味での一面に過ぎませんが、私は人はみな、自然の中で自然に触れながら生きてゆく事が一番大切だと思います。自然の中で、自然を見ているといろんな事を学ぶことが出来ます。そして、人はどう生きるべきかを教えられます。所詮人間も、自然の営みの中の一部に過ぎず、自然を無視しては生きてゆけないのです。疲れた心身を癒す時、又、よりよい活力を養ふ時、自然の中に身を置く事がどんな良薬にも勝ることを信じます。

私達の町でも、アーケード建設の為、1kmほどのプラタナスを切りました。柳の並木通も、葉が落ちてうるさいといふ苦情もあるようですが、景観としても、心身の健康の為にぜひ、緑を守り育ててほしいと切望します。

東京に住む子供の所へたまに行くのですが、東京へ行って私は本当に驚きました。いな

か町よりずっと緑が多い事に感動しました。消防車が通りかねるような細い路地でも、両側から伸びて来た木々がうっそうと茂り、まさに木下闇をなしていることにびっくりしました。私達の町では、とても許してもらえない事だと思いました。家の周りの僅か50種ほどの空いた場所があれば、必ず木が植えられていました。ある新幹線の駅で、プラットホームから見下ろす所の商店街が、イチヨウ並木で店の看板もネオンもかくれてしまって、一番見てほしい所から店がはっきり見えないのです。それでも緑を大切にしている都会人の心の豊かさと、そのセンスに感激しました。息子の家の近くに古い観音寺があり、緑の大きな森になっている、その前が学校で、塀の外側にはずっと長いイチヨウ並木で、秋ともなればそれはそれはおびただしい落葉であるが、観音さまにお参りにゆく朝朝に、どの家もみな美しく落葉を掃いておられる事にも感心致しました。都会の人ほど緑に対する思いは深いものがあるように思いました。それは又、家が密集している地域ほど、防災の面からも緑や空間は大切なものと思います。

若い時はあまり気が付かない事ですが、年老いて来、足も弱くなってくると、行動範囲が非常に小さくなります。市や町にはたいてい二つや三つの公園があると思いますが、もうそこまで歩けないのです。細長い町家の、一日中陽のさし込まない部屋で、聞いてもいないテレビだけが鳴っている。そんな所でじーっとして老いてゆく老人を思ふととてもさびしくなります。せめて少しでも歩ける間は外に出て、陽に当り、近くの友人と会って話したり、子供達の遊ぶ姿が見える広場が近くにあったらと強く思います。老人にとっては何もかもが淋しいのです。若い者は年寄りの話し相手になるだけの心の余裕もなく、それどころか、老人自身を全部否定するような毎日の暮らしの中で、老人は心豊かに死んでゆけるのでしょうか。いろんなさびしさを心にいっぱい募らせながら家を一步外へ出て、さわやかな風を吸い、高い空を見上げるだけでも、ホッとして救われるような思いになるのではないのでしょうか。せめて公園にでも逃げてゆきたい老人の心を、少しでも理解しなければと思います。その公園に一本の桜などあれば、子供や老人にとって最高のいこいの場となるでしょう。草取りが出来、落葉が掃け、花見が出来、区民や隣人のコミュニケーションの場としても、本当にすばらしい事と思います。小さくてもいい、身近に公共の広場がほしい。自然がほしい。しみじみと思います。どこまで行っても経済最優先ではなく、人が人として豊かな心をはぐくんでゆける自然を、行政で確保して頂きたいと思います。

今、私達夫婦は、夫の年金だけで暮しております。経済的にはとても苦しい毎日です。でも、幸いにも小さな小さな庭があり、一、二本の木があって、雪につけ、雨につけ、そ

のさまを楽しく眺めております。鳥が来ます。花が咲きます。少しばかりの落葉を焚きその匂ひを楽しんでおります。人に話せば笑われるようなささやかな自然ですが、これ以上の豊かさはないと私達は思っております。本当にぜいたくだとも思っているくらいです。

二十一世紀は心の時代ともいわれます。私は二十一世紀に先がけて、真に心豊かな日々を送っております。周りの浮ついた話に流されることなく、死んでゆく迄、この風雅を楽しみつつ、と願っております。人間一人一人が自然の中で、自然の恵に感謝しやさしい美しい心をはぐくみ、隣人と仲良くしてゆく心のゆとりこそ、真に心豊かなる源ではないでしょうか。

緑のない町は水の枯れた砂漠に等しく、人は砂漠には住めないのです。